

ましたし、冒頭、そちらの席で申し上げましたように、4月以降の発信をしていく部分という担当を設けていきます。間寛平さんの話がありましたけども、やはり、内にとどめることなく、外に発信することによって、3万人の自殺者というの、1人でも2人でも減らしていくという話、相通ずるところがあるわけですけども、私ども、この島、市というものを次の世代にきちんとつないでいくためにも、私どもで、すべてを抱え込むことなく、皆さんにそのあたりを伝えていきながら、皆さんの英知を集めて、次に進んでいければいいなというふうに思っております。先ほど、聞くという話の考え方が、根本が間違ってるんじゃないかという御指摘ありました。聞き出すという話。聞き出すためには、やはり、発信が必要だというふうにも思っておりますので、新年度以降、そちらには市上げて取り組んでいき、冒頭言いましたように、市民基本条例の本旨というものをきちんと考えて市政運営をやっていきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） いいですか。はい、2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） どうもありがとうございました。これで質問を終わらせていただきます。

○議長（作元 義文君） これで2番、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会を11時5分から行います。

午前10時51分休憩

午前11時05分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） どなたもこんにちは。それでは、質問に入ります前に、先般の市長選挙により、再選を果たされました財部市長、まことにおめでとうございます。

向こう4年間の市政を託されたわけでありまして、責任は大変重大かと思っております。市長自身が選挙期間中に訴えてありました公債費の100億の償還、また基金の60億の蓄え、それに人員削減の問題等、大変な努力であったと私は思っておりますし、市議会はそれを大きく評価したと考えております。

市民の皆様には、非常にわかりにくい大きな実績なんです。過去4年間、毎年80億から70億の償還金、返済金を予算化せざるを得なかった。この苦労は、私は大変だったと思っております。これも1年でも早く健全財政を目指した結果でありまして、市民の皆さん始め各種団体の皆さん、また職員皆さんの協力の賜物であります。本来ならば、言葉は適切ではありませんが、人気商売です。地域住民の希望にこたえたかったであろうと思っておりますが、責任がある者はそのよ

うなことはできません。今回は守りから攻めへの力強い訴えでありましたが、2期目が大変だと思っております。地場産業の掘り起しによる雇用、職場の確保、先ほど話があったように、離島振興法の改正に向けた提案型防人の島新法制定、海洋保護区の設定、数えれば切りがありません。最終的に私も離島活性化の特別委員会のほうに属しておりますので、本土と離島の格差の是正、対馬の経済浮揚と待ったなしであります。市民の期待は非常に大きいように感じております。どうかお互いに島民のために頑張っていきたいと、このように最初にお祝いを申し上げたいと思います。

それでは、通告に従いまして、幼保一体総合こども園の建設について、お尋ねをいたします。

今回、民主党政権による幼保一体総合こども園、いわゆる子育て支援の案が導入されることになりました。実施は2015年からということでございます。待機児童の解消を図るのが目的でありますから、実施に向けて、着々と法案の整理が出てくるかと思っております。

ところで、上対馬庁舎跡地に建設の方向で答弁をいただいております上対馬幼稚園の建設の件ですが、当時は幼保一元化とか言っておりましたが、具体的な福祉部と教育委員会の打ち合わせ等進んでいたように理解しておりますが、既に計画済みなのかどうか、お尋ねをいたします。

一方、通告はしておりませんが、厳原幼稚園のほうも話し合いも終了し、予定地に移るとのようですが、移転先周辺の用地等、すべて万全と理解してよろしいのでしょうか。

3点目、2点目か。県道道の改良についてお尋ねをいたします。

合併以来、8年が経過をいたしました。県道の改良も進められてきましたが、上対馬厳原間の時間短縮はいまいちであります。スピード制限の緩和、改良率等のスピードアップ、一方、上対馬豊玉線の舟志琴間の計画ですが、自民党対馬支部での知事への陳情時に私も同行させていただきましたが、その後、知事の方針に具体的な前進が何かあったのか、お尋ねいたします。といいますのも、比田勝博多間のジェットフォイルの就航廃止、上対馬高校通学費補助金の廃止、就学生の減少等、また緊急車両の搬送時間短縮の問題もろもろ考えますと、早急な改良が必要であります。

ところで、27日の一般質問の締め切りの後、2月29日の夜であります。一般国道382大地バイパス線、この事業説明会がありましたので、私も出向きました。大地美止々間、延長1,690メートル、工事起点は鈴木石油スタンドから終点は旧火葬場美止々の2車線の改良済までの1,690メートル、幅員5.5メートル。それから、その間、トンネルが4本、1号トンネルが170メートル、2号が232メートル、3号が207メートル、それから4号が679メートル。基準は3種の4級だそうです。これは上対馬、上県両町の町民の悲願でありました。平成29年度完成との説明であります。この知事の箇所づけについても、市長の私は一つの実績だと、このように理解をしています。これからは工事費の大幅なかさ上げを努力してい

ただきたいと、このようにお願いをします。

それから、3点目が上対馬給食センターの老朽化に対する考え方ですけど、これは教育長のほうから、一度、答弁はいただいておりますけど、学校統廃合の計画とあわせた中での総合的な考え方が、今、どのようになっておるのかをお尋ねいたします。

それから4点目ですけど、施政方針の中で施策大綱の第5「思いやりと健やかさを育む健康・福祉の人とまちについて」、これを通告しておりましたけど、基本的には、病院、診療所の機能分担強化に加え、医師や看護師の確保が必要不可欠であることは十分理解できるが、私であれば、在宅医療とか、訪問診療等はどうに考えてあるのかをお尋ねしたいと思っております。

それに、昨日の新聞で知り得ましたけど、上対馬病院の産科外科の常駐廃止について、通告外ですけど、後ほど、お尋ねしたいと思っております。

後は答弁によりまして、一問一答でお願いしたいと思います。どうぞよろしく。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 糸瀬議員の御質問に答えさせていただきます。

冒頭の中で、2期目のお話がありました。私自身、2期目を迎えるに当たり、やはり、この対馬のあすを決めるという部分におきまして、責任と覚悟というものに打ち震える部分も感じました。しっかりと4年間取り組んでいきたいと思っております。

1点目の幼保一体の総合こども園建設の件がございますが、これにつきましては、1月末でしたか、国のほうが新聞報道で総合こども園というものを打ち出しました。これにつきましては、今現在、国で、もう何カ月にもわたって論議されております税と社会保障の一体改革の中の一部であります。消費税の方向性というものに組み込まれておりますので、その部分がきちんと見えないと、何とも言いがたい部分があります。今の通常国会の中で、さて、この消費税に関する部分、幼保一体のこの総合こども園に関する法案等がきちんと論議されていけるのかどうかというのをじっくり見ていかないといけないのかなというふうに思っております。

なお、この上対馬、比田勝における幼保一体の、名称はともかくとしまして、幼保一体型の施設につきましては、昨年、福祉部門、教育部門、この部門で3回、物事をどのように進めていくかということ等々、どのようなものを描き出していくかということについて話し合いが行われたというふうには、報告は上がってきております。年次等については、まだ財政等も当然、財政状況もにらみながら決めていかないといけないという問題がありますので、はっきりはさせておりません。今後も両部の検討、並びに保護者の皆様の意向というもの、地域の意向というものを踏まえて、その運営方針、新たな総合こども園が出されれば、その今度は運営方針に沿うような形で、施設建設に続けていければというふうに考えております。

それと2点目の国県道の問題がありました。2月29日ですか、大地バイパスの問題があった、



き出せない方等々については、その在宅医療という、今までもやってきておりますけども、それらをしっかりと取り組んでいくことが必要だというふうに思っております。さらに、2年ほど前から、長崎大学医学部と一緒に組んで組み立てをしております「見守りネット」というのがございますけども、それらをCATV網を活用しながら、在宅医療とまではいきませんが、異常をきちんとわかる。異常をわかっていくということをしかりと病院と連携しながらとらえていく方法もつくり出していかなくてはならないというふうに思っております。一応、国の動きとしましては、その在宅医療に関する診療報酬の改正案というものが出されて、在宅医療に対する上積みがあつてというふうな話も聞いております。今後、施設収容型だけでは対応できないということは、もう明らかですので、それらとのバランスというものを見ていながら取り組んでいきたいと思っておりますし、そういう体制というものをこちらは病院企業団のほうに要望をしていくだけの立場になっておりますけども、私は、できれば、糸瀬議員のほうは病院企業団議会議員として、そちらの議会の場でも、しっかりとそのあたりの方向性というものについて、企業団のほうにお願いをしていただければ、同一歩調で市民の安心な医療体制というものが構築できるのではないかとこのように思っておりますので、よろしく願いをして、答弁とさせていただきます。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 給食調理場について、お答えをいたします。

上対馬学校給食共同調理場は、昭和54年3月建築で、老朽化のため、建てかえを計画しているところでございます。現在、同調理場は、上対馬町管内の4校に配送をしております。今後予定される学校統廃合を考えますと、上対馬学校給食共同調理場は、統廃合で長く残る学校に近い場所が適地ではないかと考えております。

また、現在、佐須奈小学校給食共同調理場で、佐護小学校、中学校まで配送を受け持っておりますが、調理場も手狭でございますし、ウェット方式の調理場でもあります。対馬北部地域の学校統合後の合理的な学校給食調理場運営を考えますと、将来、佐須奈調理場を廃止し、上対馬学校給食共同調理場から配送することで、配送校の見直しも検討をしているところでございます。今後、建設用地、施設の規模、内容等について、関係部局、関係機関とさらに協議を深め、財源調整がつき次第、建築計画を進めていきたいと考えております。

○議長（作元 義文君） 16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） それでは、ちょっと1問目から質問を再度していきたいと思っております。

私のほうから、本当に、もう少しですね、もう少し、前向きのお話が聞けるかなと思っておりますけど、残念ながら、必要性は、重々理解はできるけど、いまいち、消費税増税に絡んだ方

向性がはっきりすれば、計画に、実施年度も計画に上げ、そして総合的な地域の調整を済ませながら、先に進めたいというようなことです。前向きには間違いありません。ただ、先般質問した、あの時点からしますと、実は国のほうも、ちょっと足踏みをしましたけど、もう少し進んでおるかなという思いも今持ちました。

それから、市長、私が2015年実施ということであれば、もう既に、市町村のほうには意向調査等々、実施に向けた対象者の把握とか、そういうことに入っていけば、ちょうど2015年には実施できるような計画として進めていただければですね。実施要項というのは早目に来ると思います。法律はちょっと後で決まりそうですから、私の考え、これ間違いでしょうか。何か、実施の方向に向けた手だてを進めていただければと、今回強く要望しておきます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私が先ほどの答弁で前向き、もっと前向きなというお話がありましたけども、国のほうの方向性というのが全く見えてません。1月30日の分につきましては、あくまでも新聞報道だけであります。そして、その後1カ月がもう既に経過はしておりますけども、国のほうから、その総合こども園ということでの文書が1枚も、県のほうにも届いてない状況です。今、法案の合意さえもできてないと思います。そういう意味において、県のほうにも、市のほうにも、一切流れてきておりません。そういう中、意向調査というの、当然あっておりませんし、私のほうも、国の今、揺れてる部分が私の答弁の不明確さにもつながっているというふうに理解をしていただければと思っております。

○議長（作元 義文君） 16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） 市長も御承知のとおり、インターネットでは、詳しく、一応出ておりますので、よろしく願いをしておきたいと思っております。

それから、国県道の問題ですね。市長、いいですか。国県道の問題。私は、先ほど言いましたように、非常な、美止々の改良については、非常な前進だと私は思っております。ところで、あとの仁田地区とか、それから豊玉ですか、ある程度されてるのは、美津島の保安林関係でしょうか。あそこら辺が遅々として、一向に進まないのですが、そこら辺は、地方局との打ち合わせは、どの程度、進んでおるか、ちょっとお願いをします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、土地の問題に着手できる状況になっただけでございます。美津島の問題については、保安林ではなく、入会林の部分について、まだ進んで、これはありません。地区の決定もいただかんばいかん話もありますし、そういう意味において、先ほど申しましたように、県も相当の国費の割合を今、対馬にも投じていただいております。全体の事業費が半分以下に落ちていってる状況も、もう10年ぐらい前から見ますとですね、そういう状

況の中で、県も一生懸命取り組んでいただいているというふうに思いますし、新規を採択していただいた、私はまずもって、この英断に感謝をしているところであります。次の、いろんな悪い箇所があることも重々知っておりますけども、それについては、県の財政との兼ね合いも当然ございますので、すべてを一度に持っていくということではできません。そこも考慮しながらやっていきたいと思っております。

仁田のお話が出ました。そこについては、私はちょっと聞き及んでいない部分がございますので、担当部長のほうに説明をさせたいと思います。

○議長（作元 義文君） 建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀 義喜君） 国道の要望活動に関しまして、議会のほうで設置をしていただいております国県道路整備促進特別委員会と市のほうと協調しながら、要望活動は実施をしておるわけですが、平成22年の7月に市と議会の連名で、この国道の3カ所について要望させていただきました。その内容というのが、国道で言いますと、今、採択を受けました大地地区と、そして、その南側にあります美止々、それから檜滝、弓張間ですね。この3カ所を今メインに進めております。ですから、今後、事業の進め方といたしましては、当面は、この大地地区の改良を優先して、その後、その辺の進捗状況を見ながら、次期、どの箇所を実施をしていくのか。この辺も、また県と協議をしながら、また特別委員会と御相談を申し上げながら進めていきたいというふうを考えております。

○議長（作元 義文君） 16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） 私の感覚から、ちょっと、まことに申しわけないですけど、国道382の今改良は巖原の市内と、そして、今度、着工する大地美止々線なんですか。私であれば、何かちょっと走ってくる中で、少し、こういうところは、局部改良で対応してもらわなければならないかという思いの箇所があるんですよ。そこら辺の思いは、話し合いとしては、出てはおるんでしょうか。一体的に、もう前後、大々的に改修をするということじゃなくて、ここだけは事故多発だし、非常に運転もしにくい所があるなど、それもあわせて、堀部長のほうから、どのような打ち合わせがあっておるのかをお尋ねします。

○議長（作元 義文君） 建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀 義喜君） 議員がおっしゃるとおり、かなり国道関係でも改良を必要とする箇所がございます。その中で、県といたしましても、早急な改良をする。応急的な対応をしなくてはいけないという箇所につきましては、従来の補助事業じゃなくて、単独事業として実施をしておられる所が数カ所ございます。その辺もひっくるめまして、市のほうも、そういう要望箇所といますか、改良すべき箇所の抽出をしまして、今後、県に対して、要望していくということで進めたいと思っております。





思いますけど。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今回行政報告の中でも御報告させていただきました。今週の月曜日に報告したようなことが企業団のほうから私のほうに夕刻話がありました。産婦人科がそこで、上対馬でなくなるということ、診療科目が産婦人科医が、医者はいても外科医がいないと緊急手術、帝王切開などの対応ができない。1人の医師では帝王切開はできないんだというふうな説明を受けました。まさしく外科医がいなかったためにこの産婦人科がなくなるというふうな、こちらとしては医療のそういう連携ということをよくわからない部分もございましたけども、何で外科医がいなくてもいいかと思いましたが、説明聞くとよくわかるんですけども、まさしくこの問題というのは、医師確保がどんどん難しくなってることのすべてあらわれだろうというふうにも思います。

先ほど、いつはらが外科医が5名になる、数字的にはですね。数字的には実際5名という数字は出てるみたいですが、実際は4名というふうな考え方を向こうは持ってるみたいです。診療所関係、出張診療所関係へ出していく先生をそこに当て込んでいく、数字にカウントされてるというふうなことも聞きました。

外科医、それからもう一つは県の養成の問題、そして養成の場合、いろいろな10年年限と別に、途中で研修の問題とかいろいろあるんですけども、それらをずっと延ばし延ばしにしていく中で、やはりお医者様もそういうルールの中で物事を、自分の技術を高めていきたいというふうな思いを常に持っているということも、そういう中で外科医の方が集まらなくなってくるという困った問題が今回生じました。

実は、昨日家に帰りましたら、対馬出身の埼玉県で開業医をやっております先生からお手紙が来ておりました。当然、今の対馬の医療の状況というのを埼玉のほうから見たときのお話がありました。やはり、その先生の言葉の中にも、医者が公立病院に集まりにくくなってきている状況があると。その方は開業医ですけども、そういう中、公立病院がどんどん赤字になっていく心配をしてるんだというふうな一文もありました。

埼玉といえば、当然東京のすぐ近くですからしっかりと人口もいますし、それだけのお医者さんもたくさんいらっしゃる中でも、やはり公立病院が赤字にどんどん転落していった状況があって、お医者様も集まりづらくなっている。今後どのように、本当に医療体制を組めばいいのか、医療のあり方をどうすればいいのかということが、これから本当問われてるから大変な時代が来てるんだというふうな、最終的には、そういう中頑張ってくれっていう励ましの言葉で終わってございましたけども、今回起こりました上対馬の問題につきまして、糸瀬議員並びに大浦議員のお二方、企業団議員として一緒に私も企業団のほうに市民の方たちが安心できる状況というものと一緒につくっていただけるように、ともに行動は起こしていきたいというふうに思っております。

